§2 プログラム企画計画時の注意

11時10分〜12時00分 (50分) 担当：富田

●セッションの目標

参加者は、このセッション終了時に次の事が達成できる。

1) プログラムの企画計画時においての、安全危機管理の取り組みを知る。

2) 安全に活動を行うためのポイントを知る

3) 下見、保護者への説明の重要性を知る。

●指導上のねらい

1) 実際にプログラムを行う前に、想定される危険を如何に摘み取るかがカギである。

●セッション展開にあたっての留意点

1) 危険予知のトレーニング及び各種トレーニングが必要である事を促す。

2) 企画計画段階での想定であり、実施時については、次のセッションで行う。

●準備品(資材・資料)

・ホワイトボードか黒板

・プロジェクター

・付箋紙5cm x 5cm程度の大きめのもの 1-2個/グループ

・A３程度の大き目の用紙 1-2枚/グループ

・リーダー会議録の用紙 1-2枚/グループ

・危険予知トレーニングシート(HB p139-142) 1枚/グループ

●他のスタッフへの依頼事項

・特にありません。

●ヒント

・保護者との関わりが、安全にも結び付いている。

●セッション構成と展開

・導入(5分)→展開(40分)→まとめ(5分)、計50分を目安に

**1. 導入 [5分]** 11:10-11:15

・歌(ホイマシペータ)、自己紹介(簡潔に)

・グループ替え：年代別(必要に応じて。他の年代を経験するのも有益)

・セッション目標を紹介する。

**2. 展開 [40分]**

2-1. プログラム例 [10分] 11:15-11:25

・プログラムのアイデアを出しながら、同時に安全についても挙げて貰う。

　　たくさん出して貰う。

　　「これだけの危険を予知できる」という事を知ってもらう。

　　年代毎にプログラム企画/計画が異なる。

　　注意すべき点も異なる。安全は年代毎に違う。

・例えば、料理のプログラムをするにあたり、どうしますかと問う。

・例えば、年末年始が近い、風が強い→「凧をつくろう」でも良い。

　　BVS：簡単、安全、はさみ位は使う(持ち方/渡し方)

　　CS：ゴミ袋と竹ひごで作る、刃物をちょっと使う

　　BS：凧つくりの名人

　　　小学生に作れない、設計図から、スカウト自身で設計

　　　竹から作る(枝払い有無)、竹材を割るところから竹ひごを作る、等

▶︎例えば、「春、戸外へ出よう」→「観察」「工作」「文化」等を組み合わせ

　　BVS：春の花、草笛遊び

　　CS：七草粥、野点体験、草餅or桜餅作り

　　BS：筍ご飯、竹で器と箸を作る、竹で炊事

　　VS：自転車で移動キャンプ、課題の設定

・指導者がどの程度居れば、このプログラムが安全に出来るか?

　　プログラムの内容毎に場所も変わる、展開のスピードも異なる。

　　子供達は思いっきり色々やってくれる。

　　ブランコ、木登り、薪割り、刃物...

　　教えるものというより、子供達が獲得してゆくもの。

2-2. 企画/計画での注意点 [10分] 11:25-11:35

ここでは、企画/計画/場面の安全の関わり方について話をする。

・企画、計画

　　安全のチェックを行う上で、大変役に立つものであり、大切なものである。

　　企画計画に無理は生じていないか、危険がないかの予知検討もできる。

　　必要な人員、団や保護者の支援も計画に織り込む。

・事前の訓練

　　知識技能のレベルアップは、結果的に安全の確保に繋がる。

・フィールドマナーの周知徹底

　　危険地帯、または公共マナーも含め、ルールを守る事で安全を担保。

・実施手続き、連絡の大切さを理解させる。

　　必要な情報を事前にきちんと押さえておく。

　　情報共有、連絡体制づくりは危機管理の優先事項である。

2-3. 危険に対する感度を上げる [10分] 11:35-11:45

・やってみよう「危険予知トレーニング」(HB p139-142 解答p143-146)

　　顕在/潜在危険に気付く感性を養う。

　　多くの事例を知る、繰り返しの研鑽、が大切。

・潜在危険のチェックポイント(HB p41)

　　スカウトの体力/運動能力: スカウトの能力に応じた無理のない計画

　　スカウトの行動/態度: 危険を呼び込む行動/態度

　　スカウトの意識/感情: スカウト一人一人の観察が大切

　　服装: 活動に適した服装は安全上大切

　　用具: 適切な用具、適切な整備状態

　　　特に刃物は命にも関わる（場合によっては地図/コンパスでさえ）

　　天候: 気象情報を事前に入手。警報→躊躇なく活動中止/延期。

　　　雷は特に要注意。

　　　猛暑時についても、熱中症/水分補給を考慮する。

　　場所: 室内/室外其々の活動場所に対する危険を考える。

　　夜間: 暗闇や十分な光しかない場合の危険を考える。

　　　ランタンの取り扱い、夜間での作業/移動

　　緊急搬送、交通機関

　　AEDは何処にあったかな

※子供達にもクイズ、ゲームで織り込んで(安全教育に繋がる)

・料理の得意なリーダー、怒るリーダー、優しいリーダー、安全が凄いリーダー

・包丁で作る

　　保護者会で話す、ちょっと血が出るかも。

　　プラスの連鎖/コミュニケーションを作る。

・アレルギーへの対応(HB p54-55)

　　食べると駄目、触ると駄目→保護者との話が大事な要素

2-4.下見、保護者への説明 [10分] 11:45-11:55

・下見

　　現地でなければ判らない危険要因をどれだけ見つけ出せるか。

　　また、下見により安全上問題が発見できれば、当然計画も変更する。

・保護者への説明

　　安全に対する意義づけ、保護者の責任を説明

　　スカウトの把握　スカウトの身体体力等の情報を得る場

・県外旅行申請書(HB p57)

　　県連間の安全他に関する連携の為に。

　　県外での活動において、重大事故/病気/遭難等のアクシデントに

　　見舞われた際に、その先の県連盟が対応支援する為に大切な情報となる。

**3. セッションのまとめと確認事項 [5分]** 11:55-12:00

1) プログラムの企画計画時においての、安全危機管理の取り組みを知る。

2) 安全に活動を行うためのポイントを知る

3) 下見、保護者への説明の重要性を知る。

4) 県外旅行申請書

5) 危険予知トレーニング

　　安全危機管理Step1/Step2への参加を。

※まず色々知ろう。感性を磨こう。

以上